

## 平成29年度 部局自己評価報告書（37：東北メディカル・メガバンク機構）

**Ⅲ 部局別評価指標(取組分)**

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限：(23)～(24)合わせて7,000字以内

**(1)全学の第3期中期目標・中期計画への貢献又は里見ビジョンへの貢献とその社会的価値(23)**

## ○研究に関する目標

- ・「東北メディカル・メガバンク計画」で構築された複合バイオバンクを自ら活用することにより、世界トップレベルの成果を創出する。
- ・個別化医療、個別化予防に貢献する研究の推進のための計画として、当機構からの被引用度の高い論文を、平成27年度比で20%以上増やすことを目標とする。
- ・世界をけん引する最高水準の研究にチャレンジする体制を強化するため、我が国における大規模一般住民バイオバンクを確立し、ゲノム医療研究の中核拠点としての使命を遂行する。詳細は次項(2)に記載する。

## ○社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- ・ToMMo クリニカルフェロー制度などを通じて、被災地をはじめとする地域医療の発展に貢献する。
- ・広報活動を通じて、「東北メディカル・メガバンク」計画の成果を被災地住民や自治体に普及させ、被災地の健康復興に貢献する。広報活動は第2期の取組みで行ってきた内容を継続するとともに、新規企画の検討を行っている。本件は中期目標 No39 に掲げるメディカル・メガバンク先進モデルの提供にあたる。

## ○災害からの復興・新生に関する目標

- ・本目標は東北メディカル・メガバンク機構の主要な活動であり、ミッションの再定義に相当する内容なので、以下の(2)に詳述する。

## ○その他の目標

- ・グローバル化を目指し、諸外国の大規模バイオバンクとの連携、バイオバンクの国際標準化へ具体的に対応することを目標としている。平成27年から、受付ウェブサイト、分譲に関する文書、MTAなどの英訳を進めている。

**(2)[前記(23)]のほか東北大学グローバルビジョン(部局ビジョン)の重点戦略・展開施策の達成状況又は部局の第3期中期目標・中期計画の達成状況とその社会的価値(24)****部局ビジョン1. 地域医療支援・コホート調査**

「循環型医師支援制度」により、医療過疎地域への医師派遣を支援する。医療関係人材による、長期健康調査（地域住民コホート調査、三世代コホート調査）を実施し、コホートを構築する。

**達成状況**

- ・循環型医師支援として常時6人以上の常勤医師を地域の医療機関に配置。継続スポット支援として3人の医師を地域の医療機関に配置。5人の歯科医師が地域支援センターでの歯科検診を実施。
- ・地域住民コホート調査で、約8.4万人をリクルート。
- ・三世代コホート調査で、約7.3万人をリクルート。いずれも完了  
6月1日からベースライン調査参加者に対する詳細二次調査を開始、順調にスタートしている。

**部局ビジョン2. バイオバンク構築**

健康調査によって収集した生体試料や健康情報、診療情報等により、バイオバンクを構築する。適正な審査を経た上で、生体試料等を次世代医療の実現を目指す研究者等へ分譲する。

達成状況

- ・約 14 万 8 千人分の試料、約 280 万本を保管。
- ・参加者の健康情報を電子化して保管。
- ・大学病院と協力して、参加者の診療情報を電子的に入手するシステムを構築中。
- ・約 11,000 人のゲノム情報、DNA、血清、血漿、尿及び細胞について分譲受付中。これまでに 4 件の分譲を実現。

部局ビジョン 3. ゲノム情報等解析

1,000 人の全ゲノム解析を行い、日本人の標準ゲノムセットを作成する。被災地において、今後増加が懸念される疾患（心血管障害、精神神経疾患等）を中心に、疾患の発症に関連する要因とその防止法等を分析する。

達成状況

- ・約 4,000 人分の全ゲノム解析、約 2.6 万人の SNP アレイ解析を実施。
- ・平成 28 年 6 月に、2,049 人分の一塩基変異（約 2,800 万個）の頻度情報を公開。ダウンロード実績は約 5,000 件。
- ・平成 28 年 8 月に日本人基準ゲノム配列（JRGv1）を公開。
- ・平成 28 年 8 月にオミックス解析情報（J-Morp）1000 人分を拡大公開・妊娠高血圧症候群、うつ、呼吸器疾患（COPD）等の発症に関連した研究を実施中。

部局ビジョン 4. 人材育成

コホート調査、バイオバンク構築、ゲノム情報等の大規模解析を行う本事業を推進するにあたって、ゲノムメディカルリサーチコーディネーター（GMRC）、生命情報科学者、バイオインフォマティシャン、遺伝カウンセラー等の多様な人材を、医学系研究科、情報科学研究科等と連携し、養成・確保する。

達成状況

- ・約 300 人の GMRC を育成。
- ・当機構において、バイオインフォマティシャン 28 人が勤務。
- ・大学院生 6 人に対し、遺伝カウンセラー教育を実施中。
- ・これまで認定遺伝カウンセラー 4 名を輩出

部局ビジョン 5. 産学連携

私たちが目指す未来型医療の実現のため、大学等研究機関及び企業との連携を行う。独立行政法人科学技術振興機構（JST）より移管した東北大学けんこうプラザを、各製薬企業や IT 企業が創薬開発などで共同利用できるインキュベーション機能を持った器として活用する。

達成状況

- ・東芝、NTT ドコモ、NTT 等の企業と共同研究を実施中。東芝、JR が寄附研究部門を設置。新たに、オムロンヘルスケアと共同研究を開始予定。
- ・日本製薬工業協会（製薬協）との連携を強化。定期的に意見交換を行うとともに、当機構のスパコンの端末を製薬協内に設置。
- ・日本経済団体連合会を始め、多数の企業幹部の視察に対応。